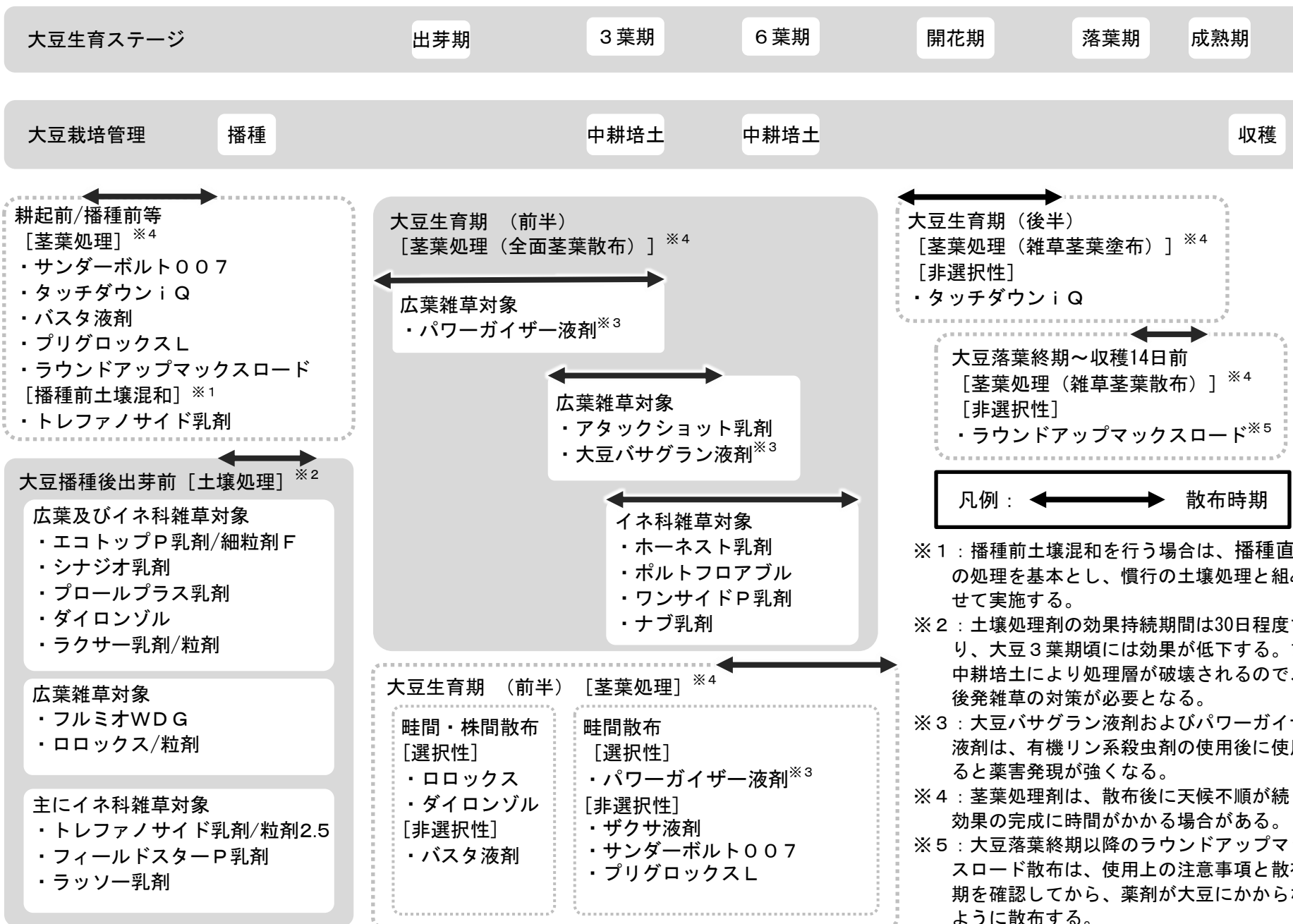
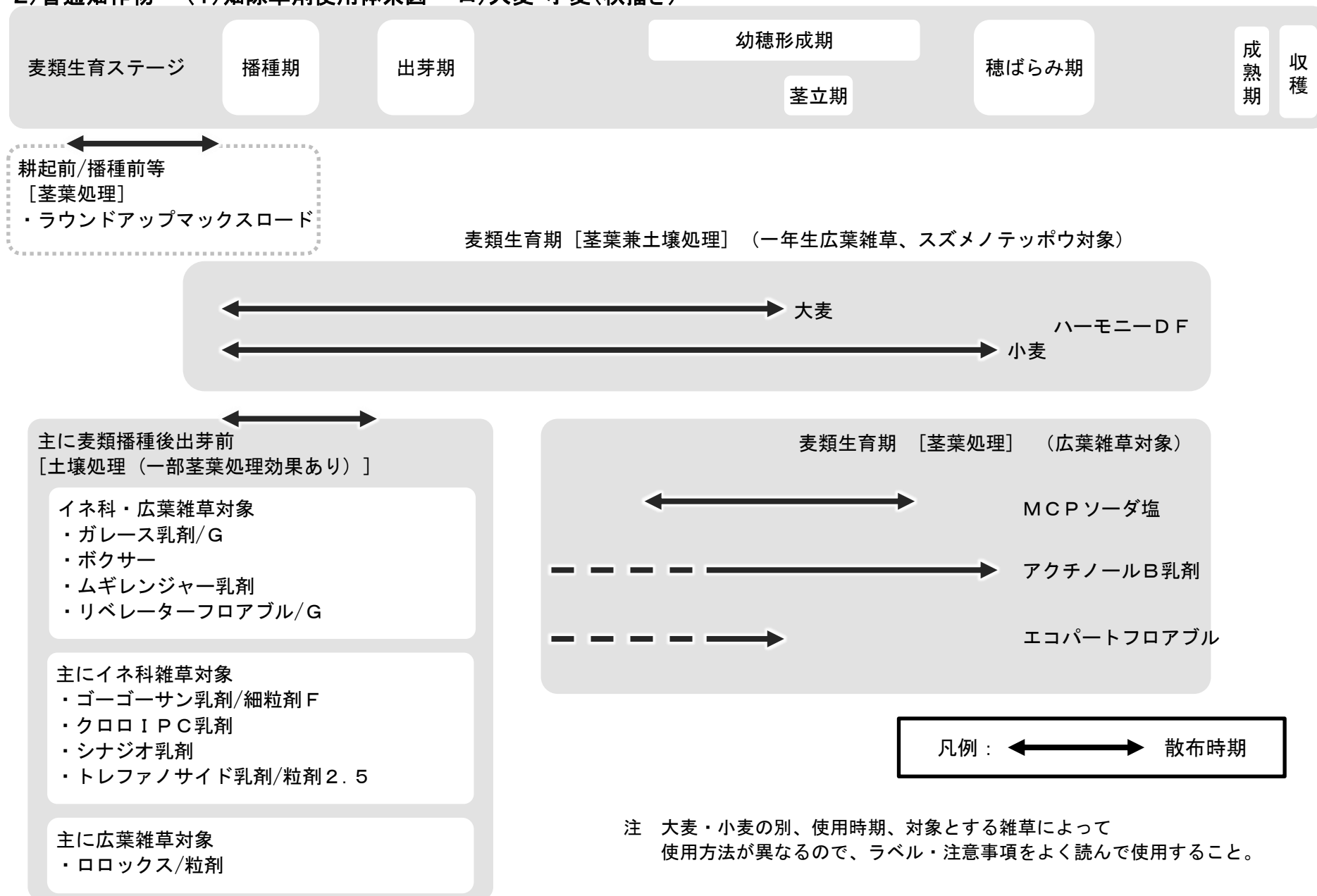


2) 普通畑作物 (1) 畑除草剤使用体系図 イ) 大豆



2) 普通畑作物 (1) 畑除草剤使用体系図 ロ) 大麦・小麦(秋播き)



1 普通作物
2) 普通畑作物
(2) 普通畑作物除草剤の使用法

イ) だいず

(イ) 茎葉処理剤 (耕起前/播種前、播種前土壌混和等)

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC コード	使用時期	10a当たり使用量 (散布液量)	使用方法	備考
		本剤	成分					
サンダーボルト007	グリホサートイソプロピルアミン塩 ／ピラフルフェンエチル	2	4/4	H:9/14	耕起前又は播種10日前まで (雑草生育期：草丈30cm以下)	400～600mL (100L)	雑草茎葉散布	
サンダーボルト007	グリホサートイソプロピルアミン塩 ／ピラフルフェンエチル	2	4/4		播種後出芽前 (雑草生育期：草丈30cm以下)	400～600mL (100L)	雑草茎葉散布	
タッチダウンiQ	グリホサートカリウム塩	2	4	H:9	耕起前又は播種7日以前 (雑草生育期：草丈30cm以下)	250～500mL (25～100L)	雑草茎葉散布	・適用雑草は、一年生雑草及びコウキヤガラ。
タッチダウンiQ	グリホサートカリウム塩	2	4	H:9	播種後出芽前 (雑草生育期：草丈30cm以下)	250～500mL (25～100L)	雑草茎葉散布	・適用雑草は、一年生雑草及びコウキヤガラ。
バスタ液剤	グルホシネート	3	3	H:10	播種前 (雑草生育期)	300～500mL (100～150L)	雑草茎葉散布	・散布後6時間以内の降雨により効果が低下する場合があるので、 気象を見極めて処理する。
バスタ液剤	グルホシネート	3	3		播種後出芽前 (雑草生育期)	300～500mL (100～150L)	雑草茎葉散布	・散布後6時間以内の降雨により効果が低下する場合があるので、 気象を見極めて処理する。
ブリグロックスL	ジクワット／パラコート	4	4/4	22/22	播種前又は植付前	600～1000mL (100～150L)	雑草茎葉散布	・散布後極めて速やかに植物体に吸収されるので、散布後の降雨により効果が低下することは少ない。
ブリグロックスL	ジクワット／パラコート	4	4/4		播種後出芽前雑草生育期 (草丈20cm以下)	600～1000mL (100～150L)	雑草茎葉散布	・散布後極めて速やかに植物体に吸収されるので、散布後の降雨により効果が低下することは少ない。
ラウンドアップマックスロード	グリホサートカリウム塩	2	4	H:9	耕起前又は出芽前まで (雑草生育期)	200～500mL (通常散布50～100L 少量散布5～50L)	雑草茎葉散布	・少量散布の場合は、専用ノズルを使用して均一に散布する。
ザクサ液剤	グルホシネートPナトリウム塩	3	3	H:10	収穫28日前まで (雑草生育期：播種・定植前)	300～500mL (100～150L)	雑草茎葉散布	・豆類（種実、ただしらっかせいを除く）での登録
トレファノサイド乳剤	トリフルラリン	1	2	H:3	は種前	200～300mL (100L)	全面土壌混和	・適用土壌は、砂壤土～埴土。 ・適用雑草は、ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く。 ・本剤の使用回数は1回、トリフルラリンを含む農薬の総使用回数は2回以内（ただし、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、畦間土壌散布は1回以内）。

(ロ) 土壌処理剤 (播種後出芽前等)								
除草剤名	有効成分名	使用回数 本剤	成分 成分	RAC コード	使用時期	10a当たり使用量 (散布流量)	使用方法	備考
エコトップP乳剤	ジメテナミドP／リニュロン	1	1/2	H:15/5	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～600mL (100L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・本剤の使用回数は1回、ジメテナミドPを含む農薬の総使用回数は1回、リニュロンは2回以内 (ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)。
エコトップP細粒剤F						4～6kg		
シナジオ乳剤	トリフルラリン／IPC	1	2/1	H:3/23	播種後出芽前 (雑草発生前)	300～400mL (100L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・適用雑草は、ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科雑草を除く。 ・本剤の使用回数は1回。トリフルラリンを含む農薬の総使用回数は2回以内 (ただし、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、畦間土壌散布は1回以内)、IPCは1回。
ブロールプラス乳剤	ジメテナミドP／ペンディメタリン ／リニュロン	1	1/1/ 2	H:15/3 /5	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～600mL (70～150L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・本剤の使用回数は1回、ジメテナミド及びジメテナミドPを含む農薬の総使用回数は1回、ペンディメタリンは1回、リニュロンは2回以内 (ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)。
ダイロンゾル	DCMU	1	2	H:5	播種後出芽前 (雑草発生前)	150～200mL (100L)	土壌散布	・広葉雑草優占ほ場で使用する。 ・本剤の使用回数は1回、DCMUを含む農薬の総使用回数は2回以内 (ただし、出芽前は1回以内、生育期は1回以内)。
ラクサー乳剤	アラクロール／リニュロン	1	1/2	H:15/5	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～800mL (100L)	全面土壌散布	・適用雑草は、使用量400～600mLはツユクサを除く一年生雑草、400～800mLはツユクサ。 ・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・本剤の使用回数は1回、アラクロールを含む農薬の総使用回数は1回、リニュロンは2回以内 (ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)。
ラクサー粒剤						4～8kg		・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・本剤の使用回数は1回、アラクロールを含む農薬の総使用回数は1回、リニュロンは2回以内 (ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)。
フルミオWDG	フルミオキサジン	1	1	H:14	播種後出芽前 (雑草発生前)	5～10g (100L)	全面土壌散布	・使用した器具類は必ず専用の洗浄剤で洗浄する ・アレチウリ、アサガオ類等に比較的效果が高い
ロロックス	リニュロン	1	2	H:5	播種直後～出芽前 (雑草発生前～発生始期)	100～200g (70～150L)	全面土壌散布	・砂質土での使用は避ける。 ・広葉雑草の優先するほ場で使用する。 ・本剤散布後4か月以内は他の作物を作付けない ・本剤の使用回数は1回。リニュロンを含む農薬の総使用回数は2回以内 (ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)。
ロロックス粒剤					播種後出芽前 (雑草発生前)	5～6kg		
トレファノサイド乳剤	トリフルラリン	1	2	H:3	播種後出芽前	200～300mL (100L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂壤土～埴土。 ・適用雑草は、ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く。 ・本剤の使用回数は1回、トリフルラリンを含む農薬の総使用回数は2回以内 (ただし、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、畦間土壌散布は1回以内)。
トレファノサイド粒剤 2. 5						4～6kg		・適用土壌は、砂壤土～埴土。 ・適用雑草は、ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く。 ・本剤の使用回数は1回、トリフルラリンを含む農薬の総使用回数は2回以内 (ただし、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内)。
フィールドスターP乳剤	ジメテナミドP	1	1	H:15	播種後発芽前 (雑草発生前)	75～120mL (70～150L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・適用雑草は、アカザ科・アブラナ科・タデ科雑草を除く。
ラッソー乳剤	アラクロール	1	1	H:15	播種後出芽前	300～600mL (100L)	全面土壌散布	・一年生イネ科又はカヤツリグサ科の優占ほ場で使用する。

(ハ) 茎葉処理剤（生育期前半（全面茎葉散布等））								
除草剤名	有効成分名	使用回数 本剤	成分 成分	RAC コード	使用時期	10aあたり使用量 （散布流量）	使用方法	備考
パワーガイザー液剤	イマザモックスアンモニウム塩	1	2	H:2	出芽直前～3葉期まで （雑草発生始期～2葉期）	200～300mL （100L）	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	・砂質土では使用しない。 ・処理後に降雨が予想される時には使用しない。 ・初生葉期以降の散布では一時的に薬害が発生する場合があるが、その後の生育には影響しない。 ・本剤は雑草の発生始期から2葉期にかけて高い効果を示すが、雑草の生育が進むと除草効果が低下するので適期に散布する。 ・本剤の使用回数は1回、イマザモックスアンモニウム塩を含む農薬の総使用回数は2回以内（ただし、畦間処理は1回以内）。
アタックショット乳剤	フルチアセットメチル	1	1	H:14	本葉2葉期～開花前 （雑草生育期） ただし、収穫45日前まで	30～50mL （100L）	雑草茎葉散布 又は全面散布	・薬害を生じて減収する場合があるので、事前に指導機関の指導を受けるとともに、使用者の責任において薬害の品種間差及び程度を把握した上で使用する。 ・適用雑草は一年生広葉雑草（イチビ、イヌホオズキ類、ヒユ類に効果が高いが、アメリカセンダングサ、タデ科、ツユクサ科には効果が劣る）。
大豆バサグラン液剤 （ナトリウム塩）	ペンタゾンナトリウム塩	1	2	H:6	だいずの2葉期～開花前 （雑草の生育初期～6葉期） ただし、収穫45日前まで	100～150mL （100L）	雑草茎葉散布 又は全面散布	・雑草茎葉散布又は全面散布では、品種によっては薬害により減収する場合があるので、事前に指導機関の指導を受けるとともに、使用者の責任において薬害の程度を十分に確認する。 ・タデ科やアメリカセンダングサに高い効果を示すが、アカザ科やヒユ科、ナス科、トウダイグサ科、ツユクサ科、ヒルガオ科等には効果が劣る。 ・散布後の寡照により効果が低下する。 ・本剤の使用回数は1回、ペンタゾンを含む農薬の総使用回数は2回以内（ただし、畦間処理は1回以内）。
					だいずの生育期 （雑草の生育初期～6葉期） ただし、収穫45日前まで	300～500mL （100L）	畦間雑草茎葉散布	
ホーネスト乳剤	テプラロキシジム	1	1	H:1	雑草生育期 （イネ科雑草3～5葉期） ただし、収穫14日前まで	75～100mL （100～150L）	雑草茎葉散布 又は全面散布	・適用雑草は、一年生イネ科雑草（8～10葉期処理はスズメノカタビラを除く）。 ・イネ科雑草を完全に枯殺するまでに7～10日（スズメノカタビラは2～3週間）を要するので、誤って散布し直さないように注意する。
					雑草生育期 （イネ科雑草6～10葉期） ただし、収穫14日前まで	75～100mL （100L）		
ボルトフロアブル	キザロホップエチル	2	2	H:1	雑草生育期 （イネ科雑草3～10葉期） ただし、収穫30日前まで	200～300mL （通常散布50～100L 少量散布25～50L）	雑草茎葉散布 又は全面散布	・適用雑草は、一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）。 ・イネ科雑草を完全に枯殺するまでに約1週間を要するので、誤って散布し直さないように注意する。
					雑草生育期 （イネ科雑草3～5葉期） ただし、収穫60日前まで	75～100mL （通常散布50～100L 少量散布25～50L）		
ワンサイドP乳剤	フルアジホップP	1	1	H:1	雑草生育期 （イネ科雑草5～8葉期） ただし、収穫60日前まで	100mL （通常散布50～100L 少量散布25～50L）	雑草茎葉散布	・適用雑草は、一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）、シバムギ、レッドトップ。イネ科雑草に対しては、一年生から多年生まで広範囲に効果がある。 ・イネ科雑草を完全に枯殺するまでに約3週間程度かかる場合があるので、誤って散布し直さないように注意する。
					雑草生育期 （イネ科雑草8～10葉期） ただし、収穫60日前まで	100mL （100L）		
ナブ乳剤	セトキシジム	1	1	H:1	雑草生育期 （イネ科雑草3～5葉期） ただし、収穫30日前まで	150～200mL （通常散布50～150L 少量散布25～50L）	雑草茎葉散布 又は全面散布	・適用雑草は、一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）。 ・イネ科雑草を完全に枯殺するまでに約1週間を要するので、誤って散布し直さないように注意する。 ・雑草に付着した薬剤は速やかに吸収されるので、散布液が乾いた後の降雨は除草効果に影響しない。
					雑草生育期 （イネ科雑草6～8葉期） ただし、収穫30日前まで	200mL （通常散布50～100L 少量散布25～50L）		

(二) 茎葉処理剤（生育期前半（畦間処理、畦間・株間処理））

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC	使用時期	10a当たり使用量 (散布液量)	使用方法	備考
		本剤	成分	コード				
ロロックス	リニュロン	1	2	5	本葉3葉期以降 ただし、収穫30日前まで (雑草生育期)	100～200g (70～150L)	雑草茎葉兼 土壌散布 (畦間・株間処理)	・砂質土での使用は避ける。 ・広葉雑草の優先するほ場で使用する。 ・本剤散布後4か月以内は他の作物を付付けしない ・本剤の使用回数は1回。リニュロンを含む農薬の総使用回数は2回以内（ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内）。
ダイロンゾル	DCMU	1	2	5	生育期 (畦間・株間処理：本葉5葉期以降、雑草生育期（草丈15cm以下）） ただし、収穫30日前まで	100～200mL (100L)	雑草茎葉散布又は全面土壌散布 (畦間・株間処理)	・広葉雑草優占ほ場で使用する。 ・本剤の使用回数は1回、DCMUを含む農薬の総使用回数は2回以内（ただし、出芽前は1回以内、生育期は1回以内）。
バスタ液剤	グルホシネート	3	3	10	収穫28日前まで (畦間処理：雑草生育期) 収穫28日前まで (株間処理：本葉5葉期以降雑草生育期)	300～500mL (100～150L)	雑草茎葉散布 (畦間処理) 雑草茎葉散布 (株間処理)	・散布後6時間以内の降雨により効果が低下する場合があるので、気象を見極めて処理する。 ・だいたいに飛散しないように散布に注意する。
ザクサ液剤	グルホシネート Pナトリウム塩	3	3	10	収穫28日前まで (雑草生育期)	300～500mL (100～150L)	畦間処理	・だいたいに飛散しないように散布に注意する。 ・豆類（種実、ただしらっかせいを除く）での登録。
サンダーボルトO O 7	グリホサートイソプロピルアミン塩／ピラフルフェンエチル	2	4/4	9/14	雑草生育期 (草丈30cm以下) ただし、収穫前日まで	400～600mL (100L)	畦間処理	・だいたいに飛散しないように散布に注意する。
パワーガイザー液剤	イマザモックス アンモニウム塩	1	2	2	生育期 (雑草発生揃期～2葉期) ただし、収穫30日前まで	200～300mL (100L)	畦間雑草茎葉散布	・有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、薬害が発生する場合があるので行わない。 ・茎葉散布を行う場合、薬液が作物に飛散すると黄化症状の薬害を生じるおそれがあるので、だいたいに飛散しないように注意する。 ・処理後に降雨が予想されるときには使用しない。 ・本剤の使用回数は1回、イマザモックスアンモニウム塩を含む農薬の総使用回数は2回以内（ただし、畦間処理は1回以内）。
プリグロックスL	ジクワット／パラコート	4	4/4	22/22	畦間処理：雑草生育期 (草丈30cm以下) ただし、収穫3日前まで	600～1000mL (100～150L)	雑草茎葉散布 (畦間処理)	・散布後極めて速やかに植物体に吸収されるので、散布後の降雨により効果が低下することは少ない。 ・だいたいに飛散しないように散布に注意する。
ラウンドアップマックスロード	グリホサートカリウム塩	2	4	9	収穫前日まで (雑草生育期：畦間処理)	200～500mL (通常散布50～100L 少量散布25～50L)	雑草茎葉散布 (畦間処理)	・少量散布の場合は、専用ノズルを使用して均一に散布する。 ・だいたいに飛散しないように散布に注意する。
タッチダウン i Q	グリホサートカリウム塩	2	4	9	畦間処理：雑草生育期 ただし、収穫前日まで	250～500mL (25～50L)	雑草茎葉散布 (畦間処理)	・だいたいに飛散しないように散布に注意する。 ・適用雑草は、一年生雑草及びコウキヤガラ。

(二) 茎葉処理剤（生育期前半（畦間処理、畦間・株間処理））

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC コード	使用時期	10a当たり使用量 （散布流量）	使用方法	備考
		本剤	成分					
大豆バサグラン液剤 （ナトリウム塩）	ペンタゾンナト リウム塩	1	2	6	だいずの生育期 （雑草の生育初期～6葉期） ただし、収穫45日前まで	300～500mL （100L）	畦間雑草茎葉散布	・ 雑草茎葉散布又は全面散布では、品種によっては薬害により減収する場合があるので、事前に指導機関の指導を受けるとともに、使用者の責任において薬害の程度を十分に確認する。 ・ タデ科やアメリカセンダングサに高い効果を示すが、アカザ科やヒユ科、ナス科、トウダイグサ科、ツユクサ科、ヒルガオ科等には効果が劣る。 ・ 散布後の寡照により効果が低下する。 ・ 本剤の使用回数は1回、ペンタゾンを含む農薬の総使用回数は2回以内（ただし、畦間処理は1回以内）。

(二) 茎葉処理剤（生育期前半（畦間処理、畦間・株間処理））

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC	使用時期	10a当たり使用量 （散布液量）	使用方法	備考
		本剤	成分	コード				

(ホ) 茎葉処理剤（生育期後半（雑草茎葉塗布））

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC	使用時期	10a当たり使用量 （散布液量）	使用方法	備考
		本剤	成分	コード				

タッチダウン i Q	グリホサートカリウム塩	2	4	9	生育期（雑草生育期） ただし、収穫7日前まで	2倍希釈液0.1mLを 1～3か所/株 (500mL/10a)	雑草茎葉塗布	・次年度以降に埋土種子を残さないためには、9月上旬までの処理が有効
------------	-------------	---	---	---	---------------------------	---------------------------------------	--------	-----------------------------------

(ヘ) 茎葉処理剤（大豆収穫前（雑草茎葉散布））

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC	使用時期	10a当たり使用量 （散布液量）	使用方法	備考
		本剤	成分	コード				

ラウンドアップマックスロード	グリホサートカリウム塩	1	4	9	落葉終期～収穫14日前まで （雑草生育期）	500mL (50～100L)	雑草茎葉散布	・落葉終期は、大豆の葉の大部分が落葉した時期。薬剤が大豆にかからないように散布する。 ・使用時期が遅いと効果が不十分となる。また、大型化した雑草にも効果が劣るので事前に抜き取る。 ・本剤の使用回数は、落葉終期処理は1回、それ以外は2回以内。 グリホサートを含む農薬の総使用回数は4回以内。
----------------	-------------	---	---	---	--------------------------	--------------------	--------	---

ロ) 麦類 (小麦・大麦 (秋播))
(イ) 茎葉処理剤 (耕起前/播種前、ほ場周縁部)

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC コード	区分	使用時期	10a当たり使用量 (散布液量)	使用方法	備考
		本剤	成分						
ラウンドアップマックス ロード	グリホサートカ リウム塩	3□	3	H:9	麦類	耕起前又は播種前まで (雑草生育期)	500mL (通常散布50～100L 少量散布25～50L)	雑草茎葉散布	・少量散布の場合は、専用ノズルを使用して均一に散布する。
						播種後出芽前 (雑草生育期)	200～500mL (通常散布50～100L 少量散布25～50L)		
						収穫前日まで (雑草生育期)	500mL (通常散布50～100L 少量散布5～50L)	雑草茎葉散布 (適用場所：ほ場内 の周縁部)	・麦類に飛散しないように散布に注意する。 ・少量散布の場合は、専用ノズルを使用して均一に散布する。

(ロ) 土壌処理剤 (主に麦類播種後出芽前__イネ科・広葉雑草)

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC コード	区分	使用時期	10a当たり使用量 (散布液量)	使用方法	備考
		本剤	成分						
ガレース G	ジフルフェニカ ン／トリフルラ リン	1	1/2	H:12/3	小麦 (秋播 栽培)	播種後発芽前 (雑草発生前) 小麦1～2葉期 (雑草発生前～発生始期)	4～5kg	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・水田裏作の麦類に使用する場合、過湿状態での使用は避ける。 ・秋播き麦類に使用する場合、土壌残効がながいので年内に散布を終える。 ・まれに麦の葉身に白化を生じるが、その後の生育・収量に影響はない。
					大麦 (秋播 栽培)	播種後発芽前 (雑草発生前) 大麦1～2葉期 (雑草発生前～発生始期)			
ガレース乳剤					小麦 大麦 (秋播 栽培)	播種後出芽前 (雑草発生前)	200～250mL (100L)		
ボクサー	プロスルホカル ブ	2	2	H:15		秋播栽培の播種後～麦2葉 期 (雑草発生前～発生始期)	400～500mL (50～100L)	雑草茎葉散布又は 全面土壌散布	・ネズミムギに比較的效果が高い ・砂土での使用は避ける。 ・ノミノフスマにやや効果が劣る。
					小麦	秋播栽培の麦2～4葉期 (雑草発生前～発生始期)	400～500mL (70～100L)		
					大麦	秋播栽培の播種後～麦2葉 期 (雑草発生前～発生始期)			
ムギレンジャー乳剤	プロスルホカル ブ／リニュロン	1	2/1	H:15/5	小麦 大麦	播種後出芽前 (雑草発生期)	300～600mL (通常散布50～100L 少量散布25～50L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・少量散布の場合は、専用ノズルを使用して均一に散布する。
リベレーター G	ジフルフェニカ ン／フルフェナ セット	1	1/1	H:12/15	小麦 (秋播 栽培)、 大麦 (秋播 栽培)	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草 1葉期まで)	4～5kg	全面土壌散布	・ネズミムギには、発生始期までに散布する。 ・適用土壌は、砂土を除く全土壌。
リベレーターフロアブル					小麦、 大麦 (秋播 栽培)	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科雑草 1葉期まで)	60～80mL (100L)	雑草茎葉散布又は 全面土壌散布	

(ロ) 土壌処理剤 (主に麦類播種後出芽前_主にイネ科雑草)

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC	区分	使用時期	10a当たり使用量 (散布液量)	使用方法	備考
		本剤	成分	コード					
ゴーゴーサン細粒剤 F					麦類	播種後出芽前 (雑草発生前)	5～6kg	全面土壌散布	・適用土壌は、砂壤土～埴土。 ・土壌条件により異なるが、一般に効果の持続期間が45～60日と長い。
ゴーゴーサン乳剤	ベンディメタリン	1	1	H:3	麦類 (小麦を除く)	播種後出芽前 (雑草発生前)	300～500mL (70～150L)		雑草茎葉散布又は 全面土壌散布
					小麦	播種後(雑草発生前)～小麦2葉期(イネ科雑草1葉期まで)	300～500mL (70～100L)		
クロロIPC乳剤	IPC	1	1	H:23	麦類	播種直後又は2～3葉期	100～150mL (70～100L)	全面土壌散布	・砂質土場では使用を控える。 ・生長した雑草には、ほとんど効果がみられない。 ・土壌処理の除草効果は低温時に高く、適用雑草の中でもタデ類に優れた効果がある。 ・気温が20℃以下の時に使用する。
シナジオ乳剤	トリフルラリン ／IPC	1	2/1	H:3/23	小麦 大麦	播種後出芽前 (雑草発生前)	300～400mL (100L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・適用雑草は、一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科雑草を除く)。
トレファノサイド乳剤					小麦 麦類 (小麦を除く)	は種後出芽前～生育期(雑草発生前～雑草発生始期) 但し、収穫45日前まで	200～300mL (100L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂壤土～埴土。 ・適用雑草は、一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)。 ・麦類(小麦を除く)、小麦での登録。
トレファノサイド粒剤 2.5	トリフルラリン	2	2	H:3	麦類	は種後出芽前～3葉期(雑草発生前～雑草発生始期) 生育期(雑草発生前) ただし、収穫45日前まで	4～5kg		・適用土壌は、砂壤土～埴土。 ・適用雑草は、一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)(播種後出芽前処理のみ)。

(ロ) 土壌処理剤 (主に麦類播種後出芽前_主に広葉雑草)

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC	区分	使用時期	10a当たり使用量 (散布液量)	使用方法	備考
		本剤	成分	コード					
ロロックス					麦類 (秋播)	播種後～発芽前 (雑草発生前～発生始期)	100～200g (70～150L)	全面土壌散布	・砂質土での使用は避ける。 ・広葉雑草の優先するほ場で使用する。 ・本剤散布後4か月以内は他の作物を作付けしない。
ロロックス粒剤	リニュロン	1	1	H:5	小麦 (秋播栽培)	播種後～発芽前 (雑草発生前)	6kg		

(ハ) 茎葉県土処理剤 (播種後～麦類生育期)

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC コード	区分	使用時期	10a当たり使用量 (散布液量)	使用方法	備考
		本剤	成分						
ハーモニーDF	チフェンスルフ ロンメチル	1	1	H:2	小麦	播種後～節間伸長前	5～10g (50～100L)	雑草茎葉散布又は 全面散布	・適用雑草は、一年生広葉雑草、スズメノテッポウ。 ・スズメノテッポウには、雑草5葉期までに散布する。
						節間伸長開始期～穂ばらみ 期 ただし、収穫45日前まで	3～10g (50～100L)		
					大麦	播種後～節間伸長前	5～10g (100L)		

ハーモニー細粒剤F	チフェンスルフ ロンメチル	1	1	H:2	小麦 大麦	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	4～5kg	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・適用雑草は、一年生広葉雑草、スズメノテッポウ。
-----------	------------------	---	---	-----	----------	--------------------------	-------	--------	--

(二) 茎葉処理剤 (麦類生育期)

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC コード	区分	使用時期	10a当たり使用量 (散布液量)	使用方法	備考
		本剤	成分						
MCPソーダ塩	MCPAナトリ ウム塩	1	1	H:4	麦類	幼穂形成期 ただし、収穫45日前まで	200～300g (70～100L)	雑草茎葉散布	
アクチノールB乳剤	アイオキシニル	2	2	H:6	麦類	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	100～200mL (70～100L)	雑草茎葉散布	・適用雑草は、畑地一年生広葉雑草。コニシキソウには効 果が劣る。 ・広葉雑草については、発生揃期～6葉期 (ヤエムグラは4 葉期) までに散布する。
エコパートフロアブル	ピラフルフェン エチル	2	2	H:14	小麦 (秋 播)	小麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期 ヤエムグラ2～6節期) ただし、収穫45日前まで	50～100mL (100L)	雑草茎葉散布	
					大麦	大麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期) ただし、収穫45日前まで			